

第8回新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会概要

開催日時：平成31年3月13日（水）18時00分～19時30分

開催場所：新居浜市役所3階 応接会議室

出席者：神野康一委員長他10人

傍聴者：なし

【教育長挨拶】

- ・未来の学校の姿で、どういう学校が子ども達にとって一番いい学校なのかということを主に考えていければと思っている。

1 新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会について

【検討委員会の位置づけ】

- ・全国的に少子化が進む中、10年後、20年後の市内の小中学校のあるべき姿について、「新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会設置要綱 第2条」に基づき、新居浜市教育委員会からの諮問に応じ、調査及び検討を行い、その結果を答申するものである。

【要望】

- ・諮問内容に応じて委員は選考されるべきではないかと思う。委員の選考に関して再検討していただきたい。
- 要綱3条（組織）の中で、具体的な個々のお話で、必要な場合は、専門的な見地から、オブザーバーにも来ていただいて意見をいただく運営をしている。

2 学校の規模に関する基本的な考え方について

次のとおり方針を決定する。

【望ましい学級規模について】

- ・小学校 30人（1学級あたり）
- ・中学校 30人（1学級あたり）

【理由】

教員の負担や生徒間のコミュニケーション、教員と保護者との情報交換や教員による
テストの評価等

【望ましい学校規模について】

- ・小学校 2学級以上（1学年あたり）
- ・中学校 2学級以上（1学年あたり）

付則：ただし、1学級であっても地域の実態が大変いい場合はこれに該当しない

【理由】

複式学級にならず、児童生徒の成長に必要とされるクラス替えができるため

3 新居浜市立小学校・中学校の適正規模・適正配置等について

【通学時間・通学距離について】

- ・学校の適正配置の問題で、通学距離を考える時に、徒歩で測るのと自転車で測るのはおかしいのじゃないかと思う。本来は徒歩で測るべきでは。
- ・小学生については、通学時間が長くなると、帰りも暗くなったり、不審者も多いので危険。長くても20分程度がいいと思う。中学生の場合は、自転車であったら、基準どおりで大丈夫と思う。
- ・小学1年生があのだランドセルを背負って炎天下1時間歩くのも疑問を感じる。4km1時間は誰を基準にしたものか、そこら辺の議論もされるとありがたい。
- ・小学生3km、中学生6kmあたりが適正ではないかと思う。
- ・市で出来ることだけを考えるのか、県を動かす視点で考えていくのかというところが気になっている。
- ・「愛媛県も県全体で35人学級を実現させよう」という機運を、この機会に「新居浜市の提言です」と県に訴えかけるというとらえ方をしていただけたらありがたい。
- ・通学距離や通学時間をこの会で出すということは、校区の再編成を考えてのことだと思う。距離や時間だけの概念でやっていいのか疑問を感じるが、現状のままで考えるのであれば、小学生3km、中学生6kmあたりが適正なのかなと思う。

↓

- ・適正距離・適正時間については、次回整理する。（委員長）

【学校の適正配置について】

- ・目の前ことだけを考えるのではなく、10年後、20年後の児童・生徒の数を予測して理想の姿に近い建物を思い切って建てる。例えば、中学校を川東地区に1校、川西地区に1校、上部地区に2校立派な建物を建てる。その次の段階では、小中一貫校とか、専門的なことを学ばせるなど、学識経験者に考えていただきたい。
- ・50年、100年経ったら、新しい時代が来るという構想で、大改革になるかもしれないが、コミュニティースクールのような流れになって、幼保小中が一緒になったような学校になるかもしれない。
- ・子どもの数が少なくなり、将来的には、学校は、川東、川西、上部。そんな風になっていく様に感じる。
- ・10年、20年、30年後の理想の姿みたいなグランドデザインが描かれ、建て替え時期に2～3校を1つにしてい物を建てる。それだったら出来る気がする。
- ・中学校では、バス通学も視野に入れ、川西・川東・上部の行きたい学校を選ぶことが出来るようになったらよいと思う。
- ・やはり、一定の規模はないと、勉強する子どもも切磋琢磨という点で難しい気がする。
- ・一定程度の規模があって、クラス替えが出来る規模のものを目指さないといけないのではと思う。
- ・常に児童・生徒の数を推測しながら、切羽詰まったときに準備不足だったというようなことにならないようにしないといけない。
- ・子どもにとって、集団行動を学べる場は学校である。子どもの数が減少していく中で、学校の統廃合は当然のことだと思う。
- ・将来的には、バスの検討も必要だと思う。

【要望】

- ・学校から距離の短い児童・生徒と距離が長い児童・生徒間の是正問題も検討してほしい。
 - ・公共施設の再編成計画との整合性はどうか、そういった資料もほしい。
- 今後、資料について提供する。(事務局)

【学校の適正規模・適正配置の具体的方策について】

- ・県の学級編成の基準として挙げると、小学校では、2の学年の合計数が16人を下回る場合、中学校では8人を下回る場合複式学級となる。その基準を参考にすると一つの答えは

出せる。

- ・新居浜市の見通しでは、今後複式学級になる学校は当分の間ないと予想されているので、たちまちそれぞれの学校の統廃合の話までにはならないかと思っている。

【要望】

- ・学校施設について、建築年や耐用年数等ハード面でのデータも資料として欲しい。
→単純に65年の耐用年数でいつ建て替えですというような資料にはならないが、提供可能である。(事務局)

4 教育長より

- ・長いスパンで皆さんからご提案いただいて、感謝申し上げます。
- ・20年、30年経つと学校の存在形態も意義も変わっていくと改めて感じた。
- ・初めは、早急な答えを出そうという思いもあったが、今日話を聞いて、長い視点が大事だと改めて感じた。